

作成日：2017年01月24日

改訂日：2018年03月09日

安 全 デ ー タ シ ー ト

1. 製品及び会社情報

製品の名称：スマートモルタル 主剤
 会社名：ショーボンドマテリアル株式会社
 住所：埼玉県川越市芳野台2-8-10
 担当部門：品質保証課
 電話番号：049(225)5611 F A X：049(225)5616
 緊急連絡先：品質保証課 電話番号：049(225)5611
 整理番号：スマートモルタル主剤-01

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性：	引火性液体	区分2
健康に対する有害性：	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入:蒸気)	区分4
	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2
	呼吸器感作性	区分1
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	区分1B
	発がん性	区分1B
	生殖毒性	区分2
	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分3 (麻酔作用、気道刺激)
標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分1 (呼吸器、中枢神経系)	
吸引性呼吸器有害性	分類できない	
環境に対する有害性：	水生環境急性有害性	区分3
	水生環境慢性有害性	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語： 危険

危険有害性情報： 引火性の高い液体および蒸気
 吸入すると有害
 皮膚刺激
 強い眼刺激
 吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ
 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

遺伝疾患のおそれ
発がんのおそれ
生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
呼吸器への刺激のおそれ、または、眠気やめまいのおそれ
長期にわたるまたは反復暴露による臓器の障害(呼吸器、中枢神経)
水生生物に有害

注意書き

- 予防策: 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。
屋外または換気の良い場所で使用すること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
取り扱い後はよく手を洗うこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
環境への放出を避けること。
- 対 応: 火災の場合には、消火に粉末/炭酸ガス/泡消火器を使用すること。
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚に付着した場合: 多量の水と石けんで洗うこと。
汚染された衣類は直ちに脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移動し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。
下記の場合は直ちに医師の診断/手当を受けること。
眼に入った場合、飲み込んだ場合、皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い場合、身体上の異常が生じた場合、暴露または暴露の懸念がある場合。
漏出物を回収すること。
- 保 管: 容器を密閉し、換気の良い冷暗所で、施錠するなど関係者以外が立ち入れないような管理された場所で保管すること。
- 廃 棄: 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に、業務委託し廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 混合物

化学名又は一般名 (成分)	化審法	CAS No.	濃度又は 濃度範囲 (含有量%)	P R T R 法	労働安全衛生法 通知物質57条2
メタクリル樹脂	登録済み	登録済み	60~70	該当しない	該当しない
メタクリル酸メチル	2-1036	80-62-6	30	第1種No. 420	政令番号557
アクリレートモノマー	登録済み	登録済み	1~5	該当しない	該当しない
コバルト化合物	登録済み	登録済み	1%未満	該当しない	政令番号172

4. 応急措置

- 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄をつづけること。直ちに眼科医の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合: 布で素早く拭き取り、多量の水と石鹼で洗うこと。

吸入した場合： 皮膚刺激、または、発疹が生じた場合は、医師の診断を受ける。
直ちに空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合： 直ちに水で口をすすぎ、医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤： 粉末、炭酸ガス、泡。
使ってはならない消火剤： 棒状水
特有の消火方法： 可燃性のものを周囲から取り除く。
消火活動は風上から消火する。
高温にさらされる密閉容器は水をかけて冷却する。
消火を行う者の保護： 消火作業の際は、必ず耐熱性着衣などを着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項： 保護具及び緊急時措置：直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離すること。関係者以外の立ち入りを禁止すること。
作業者は適切な保護具(手袋、保護眼鏡等)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避けること。風上に留まること。低地から離れること。

環境に対する注意事項： 河川等へ排出され、環境への影響を起ささないように注意する。
大量の流出には盛り土などで囲って流出を防止する。

回収・中和： 土砂等(の不燃物)で囲みビニールシート等でおおい、蒸気の発生を抑えながら回収する。

封じ込み及び浄化の方法・機材： 拡散を防止し、流出物をすくい取るか、又は、ウェス等を使用して空容器に回収する。

二次災害の防止策： 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、火災の発生を防ぐ。
着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
関係箇所に通報し応援を求める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い： 容器は注意して取扱い、開ける。
使用時には飲食しない。
皮膚との接触を避ける。
眼との接触を避ける。
眼と接触した場合は直ちに多量の水で洗い医師の診断を受ける。
すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐ。
皮膚と接触した場合は、直ちに多量の水又は石鹼水で洗う。

技術的対策： 加熱すると爆発の恐れがある。
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
電気機器類は、防爆型(安全増型)のものを用いる。
換気のよい区域でのみ使用する。
取扱い場所の近くにシャワー手洗い洗眼設備等を設けその位置を表示する。
取扱いは換気のよい場所で行う。
作業中のコンタクトレンズの着用は好ましくない。
局所排気装置の設置された場所で作業する。
眼/顔面用の保護具を着用する。
適当な保護衣および眼/顔面用の保護具を着用する。
取扱い後は手洗い、洗眼を十分に行う。

安全取扱注意事項： 知見なし

接触回避：情報なし

保管：

安全な保管条件：法規に従って、耐火構造、危険物施設に保管する。
消防法危険物1, 6類と混載してはならない。
冷所で保管する。
熱から離して保管する。
着火源から離して保管するー禁煙。
容器を密閉して保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

換気の悪い場所では局所排気装置等の排気のための装置を設置する。
電気機器は防爆構造とする。
取扱い場所の近くには、洗顔、身体洗浄のための設備を設ける。

許容濃度：

日本産業衛生学会：	メタクリル酸メチル	2ppm (8.3mg/m ³)
ACGIH	メタクリル酸メチル	TWA 50ppm、STEL 100ppm

保護具

呼吸器の保護具： 本製品を多量に使用する場合、または密閉空間で使用する場合には、送気式または自給式呼吸器の使用を推奨する。
手の保護具： 保護手袋
眼の保護具： 保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具： 帯電防止性能を有する、長袖の保護衣及び安全靴を推奨する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状等： 液状
色： 淡紫色
臭い： 特異臭
pH： データなし
融点・凝固点： データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲： 100℃
引火点： 11℃ 以上
燃焼または爆発範囲： データなし
蒸気圧： データなし
蒸気密度： データなし
比重： 1.0～1.2
溶解性： 水に不溶
オクタノール／水分配係数： データなし
自然発火温度： データなし
分解温度： データなし

10. 安定性及び反応性

安定性： 冷暗所で密閉状態では安定である。
反応性： 知見なし。
避けるべき条件： 金属粉等の混入、高温(50℃以上)での保管、火気。
危険有害な分解生成物： 知見なし。

11. 有害性情報

急性毒性	経口:	区分外	
	経皮:	区分外	
	吸入:	区分4	吸入すると有害
皮膚腐食性及び皮膚刺激性:		区分2	皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性:		区分2	強い眼刺激
呼吸器感作性:	区分1		吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ
皮膚感作性:	区分1		アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
生殖細胞変異原性:	区分1		遺伝疾患のおそれ
発がん性:	区分1		発がんのおそれ
生殖毒性:	区分2		生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
特定標的臓器毒性(単回暴露):	区分3		呼吸器への刺激のおそれ、または、眠気やめまいのおそれ
特定標的臓器毒性(反復暴露):	区分1		長期にわたるまたは反復暴露による臓器の障害(呼吸器、中枢神経系)
吸引性呼吸器有害性:		分類できない	

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性:	区分3	水生生物に有害
水生環境慢性有害性:	分類できない	
オゾン層への有害性:	情報なし	
生態毒性:		
魚毒性:	現在のところ知見なし	
残留性/分解性:	情報なし	
生体蓄積性:	情報なし	
土壤中の移動性:	情報なし	

13. 廃棄上の注意

産業廃棄物(廃液と廃プラスチック類の混合物)として許可を受けた専門業者に委託する。
乾燥し固形状になったものは、廃プラスチック類として同様に処理する。
容器、機械装置等を洗浄した排液等を、地面や排水溝へ流さないこと。

14. 輸送上の注意

注意事項

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
容器の漏れのないことを確かめ、転倒・落下・損傷のないように積込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

国内規制

陸上輸送:	消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法による。
海上輸送:	船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送:	航空法に定められている運送方法に従う。
国連分類:	クラス3 引火性液体
国連番号:	1866

15. 適用法令

消防法:	第4類第1石油類(非水溶性)	
毒物及び劇物取締法 :		該当しない
労働安全衛生法 通知物質57条2(通知対象物):	メタクリル酸メチル	(政令番号557)
	コバルト及びその化合物	(政令番号172)
施行令第18条 名称を表示すべき有害物:		該当しない
有機溶剤中毒予防規則:		該当しない

化学物質管理促進法: メタクリル酸メチル 第1種指定化学物質(政令番号420)
労働基準法: 疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1)
メタクリル酸メチル
感作性を有するもの(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号、平8労
基局長通達、基発第182号)
メタクリル酸メチル

16. その他の情報

注意事項:

本データは、工業的な一般的取扱いに際しての、安全な取扱いについて最新の情報を集め、記載したのですが、必ずしも充分とはいえないので取扱いには充分注意して下さい。
新たな情報を入手した場合は、追加または改訂されることがあります。
本製品の取扱いに記載されている以外の他の化学物質を混ぜたり、特殊な条件で使用するときは、ユーザーが安全性の評価を実施してください。

参考文献

- 1) GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル 作業場内の表示及び安全データシート(SDS) (JIS Z 7253:2013)
- 2) GHS分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
- 3) 原材料/製品メーカーSDS

作成日：2017年01月24日

改訂日：2018年03月09日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称：スマートモルタル 硬化剤
会社名：ショーボンドマテリアル株式会社
住所：埼玉県川越市芳野台2-8-10
担当部門：品質保証課
電話番号：049(225)5611 F A X：049(225)5616
緊急連絡先：品質保証課 電話番号：049(225)5611
整理番号：スマートモルタル硬化剤-01

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性：	有機過酸化物	タイプE
健康に対する有害性：	急性毒性(経口)	分類できない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分2
	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1 (腎臓)
	標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分1 (上部呼吸器)
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性：	水生環境急性有害性	区分1
	水生環境慢性有害性	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：危険

危険有害性情報：熱すると火災のおそれ
強い眼刺激
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
遺伝疾患のおそれ
臓器の障害(腎臓)
長期にわたるまたは反復暴露による臓器の障害(上部呼吸器)

水生生物に非常に強い毒性

注意書き

- 予防策: 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。
屋外または換気の良い場所で使用すること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
取り扱い後はよく手を洗うこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
環境への放出を避けること。
- 対 応: 火災の場合には、消火に粉末/炭酸ガス/泡消火器を使用すること。
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚に付着した場合: 多量の水と石けんで洗うこと。
汚染された衣類は直ちに脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移動し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。
下記の場合は直ちに医師の診断/手当を受けること。
眼に入った場合、飲み込んだ場合、皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い場合、身体上の異常が生じた場合、暴露または暴露の懸念がある場合。
漏出物を回収すること。
- 保 管: 容器を密閉し、換気の良い冷暗所で、施錠するなど関係者以外が立ち入れないような管理された場所で保管すること。
- 廃 棄: 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に、業務委託し廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 混合物

化学名又は一般名 (成分)	化審法	CAS No.	濃度又は 濃度範囲 (含有量%)	P R T R 法	労働安全衛生法 通知物質57条2
ジベンゾイルパーオキサイド	3-1349	94-36-0	35~45	該当しない	政令番号282
ジブチルフタレート	3-1303	84-74-2	48	第1種No. 354	政令番号479
シリカ	登録済み	登録済み	10以下	該当しない	該当しない

4. 応急措置

- 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄をつづけること。直ちに眼科医の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合: 布で素早く拭き取り、多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激、または、発疹が生じた場合は、医師の診断を受ける。
- 吸入した場合: 直ちに空気の新鮮な場所に移動し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合: 直ちに水で口をすすぎ、医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

- 消火剤： 粉末、炭酸ガス、泡、水噴霧、強化液消火剤、ハロゲン化物等
使ってはならない消火剤：－
特有の消火方法： 初期火災の場合は、粉末消火器や泡消火器等を用いて消火後、放水し冷却する。本格火災の場合は、水噴霧、泡消火器、強化液消火器等で空気を遮断し冷却する。
消火を行う者の保護： 消火作業の際は、必ず耐熱性着衣などを着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項： 保護具及び緊急時措置：直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離すること。関係者以外の立ち入りを禁止すること。
作業者は適切な保護具(手袋、保護眼鏡等)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避けること。風上に留まること。低地から離れること。
環境に対する注意事項： 河川等へ排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
大量の流出には盛り土などで囲って流出を防止する。
回収・中和： 土砂等(の不燃物)で囲みビニールシート等でおおい、蒸気の発生を抑えながら回収する。
封じ込み及び浄化の方法・機材： 拡散を防止し、流出物をすくい取るか、又は、ウェス等を使用して空容器に回収する。
二次災害の防止策： 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、火災の発生を防ぐ。着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
関係箇所に通報し応援を求める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：

安全取扱注意事項：容器は注意して取扱い、開ける。

使用時には飲食しない。

皮膚との接触を避ける。

眼との接触を避ける。

眼と接触した場合は直ちに多量の水で洗い医師の診断を受ける。

すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐ。

皮膚と接触した場合は、直ちに多量の水又は石鹼水で洗う。

技術的対策： 加熱すると爆発の恐れがある。

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。

電気機器類は、防爆型(安全増型)のものを用いる。

換気の良い区域でのみ使用する。

取扱い場所の近くにシャワー手洗い洗眼設備等を設けその位置を表示する。

取扱いは換気の良い場所で行う。

作業中のコンタクトレンズの着用は好ましくない。

局所排気装置の設置された場所で作業する。

眼／顔面用の保護具を着用する。

適当な保護衣および眼／顔面用の保護具を着用する。

取扱い後は手洗い、洗眼を十分に行う。

接触回避：『10.安定性及び反応性』を参照

保管：

安全な保管条件：室温冷暗所(品質上の観点から30℃以下)で保管する

熱から離して保管する。

着火源から離して保管する－禁煙。

他の薬品(特に本品を分解するおそれのあるアミン類、酸、アルカリ、遷移金属化合物、その他還元性物質等)と同じ場所に置かない。また、木、紙、布等も避ける。

転倒、転落防止措置をする。横置き、逆置きを厳禁する。

容器を密閉して保管する。

安全な容器包装材料:本品の分解を避けるため、使用する材質は、ステンレス、ガラス、ポリエチレン等を用い、鉄、鉛合金、鉛、ゴム等は避ける。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

換気の悪い場所では局所排気装置等の排気のための装置を設置する。

電気機器は防爆構造とする。

取扱い場所の近くには、洗顔、身体洗浄のための設備を設ける。

許容濃度:

日本産業衛生学会:	ジブチルフタレート	5mg/m ³
ACGIH	ジベンゾイルパーオキシド	TWA 5mg/m ³
	ジブチルフタレート	TWA 5mg/m ³

保護具

呼吸器の保護具: 本製品を多量に使用する場合、または密閉空間で使用する場合には、送気式または自給式呼吸器の使用を推奨する。

手の保護具: 保護手袋

眼の保護具: 保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具: 帯電防止性能を有する、長袖の保護衣及び安全靴を推奨する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状等:	粘稠液状
色:	白色
臭い:	特異臭
pH:	データなし
融点・凝固点:	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲:	データなし
引火点:	非引火
燃焼または爆発範囲:	データなし
蒸気圧:	データなし
蒸気密度:	データなし
比重:	1.15
溶解性:	水に不溶
オクタノール/水分配係数:	データなし
自然発火温度:	データなし
分解温度:	103°C

10. 安定性及び反応性

安定性: 熱に対して不安定(SADT=55°C)

反応性: 知見なし。

避けるべき条件: 直射日光。火気及び高発熱発生のおそれのあるところでは取り扱わない。強烈な摩擦や衝撃は避ける。乾燥させると衝撃や摩擦に非常に鋭敏になるので絶対に乾燥させない。

混触危険物質: 鉄、銅合金、鉛、ゴム等はさける。

アミン類、酸、アルカリ、遷移金属化合物、その他還元性物質等との接触により分解が促進される。

危険有害な分解生成物: 知見なし。

11. 有害性情報

急性毒性	経口:	分類できない
	経皮:	分類できない
	吸入:	分類できない
皮膚腐食性及び皮膚刺激性:		分類できない
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性:	区分2	強い眼刺激
呼吸器感作性:		分類できない
皮膚感作性:	区分1	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
生殖細胞変異原性:		分類できない
発がん性:		分類できない
生殖毒性:	区分2	遺伝疾患のおそれ
特定標的臓器毒性(単回暴露):	区分1	臓器の障害(腎臓)
特定標的臓器毒性(反復暴露):	区分1	長期にわたるまたは反復暴露による臓器の障害(上部呼吸器系)
吸引性呼吸器有害性:		分類できない

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性:	区分1	水生生物に非常に強い毒性 ジベンゾイルパーオキシド: 甲殻類の48時間EC50=0.07mg/L(SIDS、2004)から区分1とした。 ジブチルフタレート 魚類の96時間LC50=0.46mg/L(EU-RAR、2004)他から、区分1とした。
水生環境慢性有害性:		分類できない
オゾン層への有害性:		情報なし
生態毒性:		
魚毒性:		現在のところ知見なし
残留性/分解性:		情報なし
生体蓄積性:		情報なし
土壌中の移動性:		情報なし

13. 廃棄上の注意

この物質や容器は有害廃棄物として処理する。この製品は適法な焼却設備で廃棄処理する。
使用後の空容器は原則的に製品と同じ貯蔵条件で保管する。
容器、機械装置等を洗浄した排液等を、地面や排水溝へ流さないこと。

14. 輸送上の注意

注意事項

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
容器の漏れのないことを確かめ、転倒・落下・損傷のないように積込み、荷崩れの防止を確実に行う。

国内規制

陸上輸送: 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法による。
海上輸送: 船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送: 航空法に定められている運送方法に従う。
国連分類: クラス5.2 有機過酸化物質E(液体)
国連番号: 3107

15. 適用法令

消防法: 非危険物
毒物及び劇物取締法: 該当しない

労働安全衛生法 通知物質57条2(通知対象物): ジベンゾイルペルオキシド(政令番号282)
フタル酸ジ-ノルマル-ブチル(政令番号479)

施行令第18条 名称を表示すべき有害物: 該当しない

有機溶剤中毒予防規則: 該当しない

化学物質管理促進法: フタル酸ジ-ノルマル-ブチル 第1種指定化学物質(政令番号354)

16. その他の情報

注意事項:

本データは、工業的な一般的な取扱いに際しての、安全な取扱いについて最新の情報を集め、記載したのですが、必ずしも充分とはいえないので取扱いには充分注意して下さい。
新たな情報を入手した場合は、追加または改訂されることがあります。
本製品の取扱いに記載されている以外の他の化学物質を混ぜたり、特殊な条件で使用するときは、ユーザーが安全性の評価を実施してください。

参考文献

- 1) GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル 作業場内の表示及び安全データシート(SDS) (JIS Z 7253:2013)
- 2) GHS分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
- 3) 原材料/製品メーカーSDS